



2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 健作
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 開発本部長 兼 総務人事本部長 (氏名) 猿山 博人 TEL 03(3829)3210
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の業績 (2024年1月1日～2024年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	10,439	△4.7	13	—	41	—	△40	—
2023年12月期第3四半期	10,955	△0.4	△541	—	△556	—	△660	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	△0.69	—
2023年12月期第3四半期	△14.34	—

(注) 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については潜在株式は存在しているものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期第3四半期	5,294	3,033	57.2
2023年12月期	5,641	2,540	44.8

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 3,027百万円 2023年12月期 2,526百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の業績予想 (2024年1月1日～2024年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,983	△4.1	89	—	108	—	31	—	0.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期3Q	59,411,200株	2023年12月期	54,723,300株
② 期末自己株式数	2024年12月期3Q	220株	2023年12月期	220株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期3Q	58,085,463株	2023年12月期3Q	46,101,233株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、金融市場に不安定な動きがあるものの、雇用・所得環境改善の期待や各種政策の効果から緩やかな回復がみられました。その一方で、世界経済は高インフレの落ち着きなどを背景に底堅い成長を維持しつつも、金融市場や政策運営を巡る不確実性は高く、地政学的緊張などを背景に先行き不透明な状況が続いております。外食産業においては、全体的には回復基調にあるものの、原材料価格の高騰や人材確保に係る費用の増加など、依然として厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のもと、2024年は『漸進』を当社のテーマとして、お客様へ安心・安全な商品の提供を最優先課題としながら、運営店舗でのDXの取り組みや、新業態の企画、検討を進めながら、アジアを中心とした海外展開にも注力いたしました。

不採算店舗の撤退が進んだこと、既存店の売上対策が奏功したこと及び販売価格の適正化による原価率改善が行われたことにより、いきなり！ステーキ事業並びにレストラン事業のセグメント利益は前年同期に比べ大幅に改善しております。また、本社費用の削減効果もあり、全社での営業利益の黒字を達成することができました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における売上高は10,439百万円(前年同期比4.7%減)、営業利益は13百万円(前年同期は541百万円の営業損失)、経常利益は41百万円(前年同期は556百万円の経常損失)、四半期純損失は40百万円(前年同期は660百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

① いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、引き続き調理技術、店舗サービス力の強化を行うとともに、期間限定商品の販売によるお客様数の増加や、新たなファン層の獲得に努めてまいりました。

商品キャンペーンといたしましては、7月12日よりAUS産『イチボステーキ』、9月13日よりブラックアンガス牛を使用した『アンガスリブレットステーキ』を期間限定販売しました。

アプリ会員様向けの施策といたしまして、9月3日より会員ランク制度である『肉マイレージ』に最上位ランクとして『ロイヤル・ダイヤモンド』を新設し、その記念として、同月毎週火曜日と肉の日に1回のご来店で来店ポイント2回分進呈のキャンペーンを開催しました。また、『秋のドリンククーポン祭り』など、定期的にお得なクーポンを配信しました。

海外においては、台北、フィリピンの売上高は引き続き好調に推移しております。新規エリア開発としては、インドネシア法人の『PT PRIMA STEAK INDONESIA (ピーティー プリマ ステーキ インドネシア)』社とフランチャイズ契約を締結し、7月1日にインドネシア1号店として、『いきなり！ステーキLippo Mall Puri (リッポ モールプuri)』を開店しました。これにより、海外におけるいきなり！ステーキは5店舗となります。

なお、インドネシア1号店の業績好調を受け、『PT PRIMA STEAK INDONESIA (ピーティー プリマ ステーキ インドネシア)』社と9月12日にマスターフランチャイズ契約を締結いたしました。同社はインドネシア国内に5年以内に10店舗の出店を目指しております。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は10,111百万円(前年同期比2.2%減)、セグメント利益は911百万円(前年同期比57.0%増)となりました。

② レストラン事業

レストラン事業につきましては、新業態開発に注力しており、9月25日放送のテレビ東京「ワールドビジネスサテライト」にて、「ひとりすき焼き」をコンセプトにした新業態を取り上げて頂きました。既存店においては、「こだわりとんかつ かつき亭」にて、7月16日より期間限定で『夏御膳フェア』を行い、「炭焼きステーキく」では、毎月29日の肉の日フェアの開催のほか、7月12日より『大麦牛イチボステーキフェア』を開催しました。なお、不採算店舗の整理が完了したこと及び様々な施策により既存店の売上高が増加したことに伴い、前年同期と比べ大幅に利益改善が行われております。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は284百万円(前年同期比50.3%減)、セグメント利益は13百万円(前年同期は44百万円のセグメント損失)となりました。

③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「冷凍ワイルドステーキ」、「冷凍ガーリックライス」、「冷凍ハンバーグ」の他、家庭でもお店の味が楽しめるよう、オリジナルスパイスやソースを各大手モールにて出店販売いたしました。また、SBIC社とライセンス契約による宅配専門店『いきなり！やきにく』を展開しております。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は43百万円(前年同期比8.8%減)、セグメント損失は4百万円(前年同期は9百万円のセグメント損失)となりました。

④ その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発や店舗サポート及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。新規加盟店の出店が発生していないため、売上高が減少している状況が続いております。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は0百万円(前年同期比76.3%減)、セグメント損失は82百万円(前年同期は78百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて346百万円減少し5,294百万円となりました。これは主に、現金及び預金が32百万円減少したこと、売掛金が73百万円減少したこと、未収入金(流動資産・その他)が130百万円減少したこと、建物が74百万円減少したこと並びに敷金及び保証金が12百万円減少したことによるものです。また、子会社の清算終了に伴い破産更生債権等が3,464百万円減少し、同額を貸倒引当金と相殺しております。

負債は、前事業年度末に比べて839百万円減少し2,261百万円となりました。これは主に買掛金が156百万円減少したこと、未払金が71百万円減少したこと及び借入金を全額返済したことにより借入金が558百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて492百万円増加し3,033百万円となりました。これは主に、利益剰余金が40百万円減少したこと及び第13回新株予約権の行使に伴い資本金、資本剰余金がそれぞれ268百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2024年8月14日の「2024年12月期 中間期業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想値の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,121	2,088
売掛金	591	518
商品	155	138
貯蔵品	34	31
その他	584	441
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,456	3,187
固定資産		
有形固定資産		
建物	620	546
その他	142	128
有形固定資産合計	762	674
無形固定資産		
	55	61
投資その他の資産		
破産更生債権等	3,464	—
敷金及び保証金	1,139	1,127
その他	237	254
貸倒引当金	△3,475	△11
投資その他の資産合計	1,365	1,370
固定資産合計	2,184	2,106
資産合計	5,641	5,294

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	829	673
短期借入金	31	—
1年内返済予定の長期借入金	495	—
未払金	292	220
未払法人税等	68	78
契約負債	8	12
賞与引当金	—	13
資産除去債務	50	13
債務保証損失引当金	61	62
事業構造改善引当金	1	1
その他	445	415
流動負債合計	2,285	1,490
固定負債		
長期借入金	31	—
資産除去債務	397	403
事業構造改善引当金	5	4
その他	380	362
固定負債合計	814	770
負債合計	3,100	2,261
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	278
資本剰余金	3,231	3,499
利益剰余金	△710	△751
自己株式	△0	△0
株主資本合計	2,530	3,026
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2	1
繰延ヘッジ損益	△1	—
評価・換算差額等合計	△3	1
新株予約権	14	5
純資産合計	2,540	3,033
負債純資産合計	5,641	5,294

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	10,955	10,439
売上原価	4,724	4,268
売上総利益	6,231	6,171
販売費及び一般管理費	6,773	6,157
営業利益又は営業損失(△)	△541	13
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	0
協賛金収入	13	8
受取保険金	0	20
その他	10	20
営業外収益合計	26	50
営業外費用		
支払利息	9	2
賃貸借契約解約損	3	—
支払保証料	21	18
その他	6	3
営業外費用合計	41	23
経常利益又は経常損失(△)	△556	41
特別利益		
固定資産売却益	6	0
事業構造改善引当金戻入額	57	—
店舗譲渡益	58	—
特別利益合計	121	0
特別損失		
固定資産売却損	2	1
固定資産除却損	7	1
減損損失	155	23
特別損失合計	164	26
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△599	15
法人税、住民税及び事業税	61	55
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	61	55
四半期純損失(△)	△660	△40

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年12月26日付発行の第13回新株予約権（行使価額修正条項付）の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ268百万円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において資本金が278百万円、資本準備金が268百万円となっております。

(追加情報)

(資本金及び資本準備金の額の減少(減資)並びにその他資本剰余金処分について)

当社は、2024年9月13日開催の取締役会において、下記のとおり2024年12月17日開催予定の臨時株主総会に「資本金及び資本準備金の額の減少(減資)並びにその他資本剰余金の処分の件」の議案を付議することを決議いたしました。

1. 目的

今後の資本政策の機動性を確保することを目的として、会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額の減少を行うものであります。

なお、発行済株式総数及び純資産額に変更はありません。

2. 資本金及び資本準備金の額の減少の内容

(1) 減少する資本金及び資本準備金の額

会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、2024年9月13日現在の資本金及び資本準備金の額の減少を行います。

資本金の額278,363,946円を268,363,946円減少して10,000,000円といたします。

資本準備金の額268,363,879円を全額減少して0円といたします。

なお、当社が発行している新株予約権が2024年12月30日までに行使された場合には、新株予約権の行使に伴い株式が発行されることにより増加する資本金及び資本準備金の額と同額分を合わせて減少し、その減少額全額をその他資本剰余金に振替いたします。

(2) 方法

払戻を行わない無償減資とし、発行済株式総数の変更は行わず、減少する資本金、資本準備金の額の全額を、その他資本剰余金に振替いたします。

3. その他資本剰余金の処分の内容

会社法第452条の規定に基づき、上記の資本金及び資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、その他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替えることで、欠損填補に充当いたします。これにより、振替後の当社のその他資本剰余金の額は3,056,979,686円となり、利益剰余金の額は0円となります。

(1) 減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 710,908,670円

(2) 増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 710,908,670円

(3) 剰余金の処分が効力を生ずる日

2024年12月30日(予定)

4. 日程

(1) 取締役会決議

2024年9月13日

(2) 債権者異議申述公告日

2024年11月13日

(3) 債権者異議申述最終期日

2024年12月13日(予定)

(4) 株主総会決議日

2024年12月17日(予定)

(5) 効力発生日

2024年12月30日(予定)

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	163百万円	133百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期損益 計算書計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売 事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	10,334	573	47	1	10,955	—	10,955
計	10,334	573	47	1	10,955	—	10,955
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	580	△44	△9	△78	448	△989	△541

(注) 1. 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△989百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	四半期 財務諸表 計上額
減損損失	153	1	—	—	155	155

II 当第3四半期累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期損益 計算書計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売 事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	10,111	284	43	0	10,439	—	10,439
計	10,111	284	43	0	10,439	—	10,439
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	911	13	△4	△82	837	△823	13

(注) 1. 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△823百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	四半期 財務諸表 計上額
減損損失	23	0	—	—	23	23

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使)

当第3四半期累計期間後、当社が2022年12月26日に発行した第14回新株予約権(行使価額修正条項付)の権利行使が行われております。

新株予約権が行使され、2024年10月1日から2024年11月14日までに発行した株式の概要は以下のとおりであります。

- ① 行使された新株予約権の個数 2,526個
- ② 発行した株式の種類及び株式数 普通株式252,600株
- ③ 資本金増加額 25百万円
- ④ 資本準備金増加額 25百万円

以上により、発行済株式総数は252,600株、資本金及び資本準備金はそれぞれ25百万円増加し、2024年11月14日現在の発行済株式総数は59,663,800株、資本金は303百万円、資本準備金は293百万円となっております。